

# 2

## 子育て支援の場 こない人に向けて どうしたらよいか？

### ヒント 1

### 行きたいと思える会の工夫をする

サロン、お話し会と聞くと「どのような事をするの？」「仲間に入れるか不安…」という理由から足が遠のく方もいらっしゃるようです。一方では何をするのか明確になっている場所なら行きたいと思う方もいるようです。

#### 参加しやすい講座の例

- ・ オンラインでの会の実施
- ・ 季節の行事(お雛様、七夕など)
- ・ 保育つき  
(子どもと離れてママだけで話す)
- ・ 初めての参加者さんだけの会
- ・ ママヨガなどママ向けの企画
- ・ ベビーマッサージや遊び方と一緒に遊べるもの



★発信するときの注意  
SNS掲載時、人物写真や発言は本人の了承を得ましょう。

### ヒント 2

### “子育て支援の場”を パパ・ママへ広く発信する

初めての場に参加するにあたり、「イメージが持てずよく分からないから行きづらい…」と不安に思う方もいます。

#### 1. チラシの配架場所を工夫する

ママたちがよく通うような場所でチラシが目に入ると、パパ・ママは情報を手に入れやすいです。

#### 例

郵便局、薬局、病院、クリニック、スーパー、美容室、公園、地域ケアプラザ、地区センター、地域子育て支援拠点すきっぷ など

全施設で置けずとも、地域の情報としてチラシを置いてくれる場もあるかもしれません。是非近場の施設に聞いてみてください。どうしたらいいか分からず悩んだときは、区役所やすきっぷに相談ください。

#### 2. チラシの内容をSNS※などでも発信する

ママたちはよくSNSで検索しているの、SNSやホームページでもチラシと同じ内容を発信するとさらに効果的です。自分たちでSNSやホームページを作るのは難しいかも…という場合は、web上で情報発信している機関とつながりを持ち、PRを依頼してみましょう！また、情報の中に一言、パパやママに安心してもらう言葉を添えてあると親切です。例えば、「一人で参加もOK」「過ごし方は自由」等の一文があるといいですね。

※SNS… Instagram、Twitter など、web上で不特定多数の登録会員に情報発信をしたり会員どうし交流するインターネット上のサービス

各機関に、サロンやイベント情報の発信、地域情報紹介してほしい！と相談してみてください♪

Instagram		すきっぷ、上飯田地域ケアプラザ、親と子のつどいの広場ぼっぼの家
Twitter		泉区役所
LINE		すきっぷ
ホームページ		泉区役所、すきっぷ



### 発信の工夫

パパ・ママが安心する情報を加えて、支援の場にきやすくなる工夫を考えてみましょう。

#### 1. 写真などで活動の様子をお知らせする

写真を利用することで、参加者さんが実際の様子を知ることができイメージがしやすいです。SNSではチラシの他、写真を載せて会の様子をお伝えできるので具体的なイメージを持ちやすいです。

#### 2. どこが主催なのか明確に記載する

初めての人に安心してもらえるよう、どこが「主催」なのかを明確に提示しておくといでしょう。

#### 例

〇〇自治会、〇〇地区社協、〇〇民児協主催 など

※会の内容が分かるようにチラシに流れや当日やる事を記載し写真を入れるとイメージが付きやすいです。

#### 3. 参加者の口コミを載せる

ママたちは支援の場の口コミを聞いて、実際に行ってみようと思う事も多いようです。実際に行った人・支援者の声を聞くと具体的なイメージが付きやすいようです。

時間が少し空いた時に手軽なのでSNSなどで情報を収集している事が多いです

公園でママたちとよく情報交換しており、そこで聞いて支援の場に行こうと思った

実際に支援者が聞いた声

こんにちは赤ちゃん訪問の訪問員さんに道で会った時に声をかけてもらって支援の場を知った

子育て支援の場で保育園や幼稚園、仕事のことなど様々な情報を交換しているので楽しみです

サロンなどの場所から遠いと子ども2人連れていくのが大変。地域の人が少しサポートしてくれて嬉しかった

徒歩圏内に居場所があるのが嬉しい、子どもと一緒に遊べると楽しい

## こんな風に 支援してみました

### 体験談①



こんにちは赤ちゃん訪問時、資料をお渡しする際に「サロンや赤ちゃん教室に来てね」とお手紙を添えたところ、後日「お手紙を見たので来ました」とママが子育てサロンに来てくれました。

情報発信は、皆に広く届くようにするだけでなく、きめ細やかに一人の保護者の方に向けて情報をお届けすると必要な方に届くのもかもしれません！

### 体験談②

「子どもを連れて一人で支援の場にいけるか不安…」という話を聞き、初めてサロンに行くときに一緒に同行。そこで会の雰囲気を知り、次からはママ一人でも来れるように。会の中で、「少し抱っこしてようか」「ドア開けるね～」などとサポートしてくれた支援者の方もいて「気遣いが嬉しかった、また来たいです」とお話ししてくれました。



実際に、「子ども2人連れていくのが大変…」「荷物も多く準備も大変」という声もよく聞かれます。少し背中を押すような声掛けでママに「また来よう」と思ってもらえるきっかけにもなりますね。

『パパ・ママ支援に困ったら。支援者がハッと気づけるヒント集 令和版』

発行(問い合わせ先) 泉区福祉保健センター 子ども家庭支援課  
☎045-800-2465